

研究基盤 EXPO2025 参加して

技術センター 藤高 仁

1. はじめに(目的等)

研究基盤 EXPO は一般社団法人研究基盤協議会が主催し、1月23日～1月30日までの期間に文部科学省・全国の国公立私立学術機関が各イベントを担当(主催)しオンラインとオンサイトで開催される研究基盤の総合的討論の場である。本年度より広島大学が団体正会員となっており報告者が人材活用小委員会の委員であることから情報の収集を行うためオープニングと「共創の場」のイベントに参加した。

2. 期間・場所

期間:令和7年1月23日・24日

場所:岡山大学 津島キャンパス

3. 参加者等

研究基盤に携わる省庁・全国の国公立私立教育機関・企業の関係者

4. 研修内容

岡山大学にてオープニングと「共創の場」シンポジウムが行われ両日参加した。

オープニングにて一般社団法人研究基盤協議会の概要説明に続き第一部で報告 1「地域・地方を巡る研究基盤」長谷川 浩 理事・政策提言検討委員会 委員長 報告 2「これからの研究基盤と技術人材に求められることとは」佐々木 隆太 理事・学術委員会 委員長報告 3 「戦略的設備整備・運用計画(設備マスタープラン)の事例分析」植草 茂樹 理事・副会長江端 新吾 代表理事・会長の報告があった。第 2 部で技術と人材の交差点～産学官連携の可能性を探る～が開催された。主に人材育成に関する発表であったが企業・国立大学・私立大学・高専そしてコンサルティング団体それぞれの立場や事情を加味した人材育成法の発表がありパネルディスカッションも行われた。

二日目は「共創の場」シンポジウム第一部:ヘリウム未来革命:資源循環で築くサステナブルジャパン、第二部:現場を紡ぐ 若手ネットワークの挑戦の活動紹介とパネルディスカッションが行われた。

5. まとめと感想

研究基盤 EXPO では様々な立場で日本国の研究基盤強化を考え広めていく活動を行っている。昨今は研究基盤設備の共用化に力を入れており、それらを取り巻く技術職員の処遇改善・人材育成について討論が活発に行われている。今後の技術センターの運用に参考となる情報が効率的に学べるシンポジウムであったと考える。